

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年6月10日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.20】

革マル派はJR総連関係者への内ゲバを詳述！

前号に続き、内ゲバ事件に対するJR総連側の「権力の謀略」などとする主張について検証したい。彼らの「珍説」は随所にみられるが、現JR東労組委員長・千葉勝也氏は、東日本鉄産労（現JR東日本ユニオン、JR連合加盟）がJR東労組を訴えた「品川車掌区掲示板事件」で証人として出廷し（2000年10月3日）、以下のように証言した。

(原告側代理人) この件 (注: JR総連関係者への内ゲバ事件) に関して東労組は、内ゲバではないというふうにおっしゃっている。(千葉) (うなずく) (代理人) じゃあ、犯人はどいう人だというふうにあなたたちは考えていらっしゃいますか。(千葉) 何者かは分かりません。(代理人) なぜ、そういうふうに言えるんですか。(千葉) 逮捕された形跡がないからです。(代理人) 以前に逮捕されてないということが、絶対に逮捕されることのないというふうになりますか。(千葉) でも、この間何度もこういうものが起きていますけれども、こういうことに対する犯人が捕まったというは、非常にレアなケースを除いてはないと思いますね。それから、こういう細かいことまでは立ち入りたくないですけれども、非常に悠々と組織だてやられてると、そういう状況の中では、逮捕されないということがやっぱりあるのではないかと、それは我々の憶測ですね。そういうことです。

労組の帝国主義的再編に反対した鉄道労働者が権力に虐殺された？！

一方、革マル派も、JR総連と同様に、随所で内ゲバを「権力の謀略」などと主張してきた。革マル派の初代議長で絶対的指導者であった故黒田寛一氏は、革マル派の出版社である「あかね図書販売」発行の「内ゲバにみる警備公安警察の犯罪(下)」(玉川信明編著)に掲載されたインタビューの中で以下のように語っている。

(T注 玉川氏) 殺されっぱなし、同志たちを死なせっぱなし。それなのに、今、なぜ反撃をやらないのですか？ (K注 黒田氏) <防衛のための反撃>の闘いは1979年11月21日の青解派の残存3拠点粉碎、1976年11月17日の中核派残存求殺隊4拠点粉碎、これが最後だ。とどめの一撃だ！ (T) その前も、機関紙ではずっと勝利だの、中核は瓦解寸前だのと繰り返している。にもかかわらず、両派とも軍団が健在なのはどいうわけか？ (K) また同じことを繰り返す。謀略なのだ！ 80年代の殺人襲撃を調べてくださいよ。労働組合の帝国主義的再編や「国鉄民営化」にもとづく首切り合理化、非合理的労働強化(一人乗務・ロングラン、長時間労働など)そして広域配転・転籍などの攻撃 - これらに反対する鉄道労働者が、ほぼ毎年1人が虐殺された。大阪の鉄道官舎3か所など埼玉、大阪、兵庫で6か所が同時刻に襲われたさいには、二名の労働者が虐殺されています。負傷者もでています。残念無念！

同書では、書名にもあるように内ゲバが警察による謀略であるとの主張を延々と述べ、巻末の「謀略年表」では、内ゲバを時系列でまとめている。その中には、本情報 (No.16) で紹介した内ゲバもそれぞれ記載されている。黒田氏も、上記の通り、JR総連関係者の襲撃を「権力の謀略」として述べているほか、革マル派の書籍には、他にも「鉄道労働者への虐殺」としてJR総連関係者への内ゲバについて記載がある。これで、JR総連関係の内ゲバ被害者は「革マル派と関係ない」との主張など、とても信用できるはずがない！

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>